



サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信

友

人の皆さん、

この数か月は、確かにこれまでの年月のようではありませんでした！ 世の中全体が停止し、沈黙しています。経済は危機に陥っています；さまざまな会社が営業をやめています。すべてのもの、私たちの持っているすべてのものは自分たちの働きの結果であると私たちは思っていました。この地上にいつでもいるかのように、私たちは生活を送ってきました。

私たちはコロナウィルスのワクチンや治療薬を必死に願っています。しかし、このコロナウィルス感染の広がりによって、自分たちが忘れていたことに気づかされました：今ある私たちの存在は、常に神のいつくしみによるのだということです。このパンデミックは、私たちにとって清めとなり、神に立ち帰らせるのかもしれませんが。主は私たちをご自分に立ち帰るのを、忍耐強く待ってくださっています、ご自身が再び、私たちの存在の中心となるために。コロナウィルスにもかかわらず、私たちは平安と静けさのうちに憩うことができるでしょうか。もちろんできます！ なぜなら、神が最終的に、必ず、病、苦しみ、死に打ち勝たれると、確かなこととして信仰は教えてくれるからです！ 私たちは信仰の目で眺めながら、今日も聖霊がこの世界のうちに働き続けておられると、知っています。最後の言葉を発するのは、悪ではなく、聖霊の力によって、神のいつくしみ深い愛であると、聖霊降臨の祝いは私たちに語ります。最後に神は勝利されると。皆さん、聖霊降臨の祭日、おめでとうございます！

Josep M. M. L.

宣教師顧問 アルフレド・マラヴィジャ神父



こ

このコロナウィルスによる緊急事態は、サレジオの司牧活動の創意工夫と連帯の、発展の機会になっています。世界の全五大大陸で、最も弱い立場に置かれた人々に奉仕するさまざまな取り組み、新たな教育、司牧の提案が行われています。サレジオの熱意から世界中でさまざまな取り組みがどのように行われているか、ニュースやあかし、写真、ビデオを毎日、目にするのはうれしいことです。

サレジオ会の緊急支援の連携調整は、宣教部門が担当しています。宣教部門のチームが、世界規模で共に歩み、連帯を促進しています。チームは、各プロジェクトの実現のための資金の使い方について、いくつ

か指針や提案を示しています：

- 誰一人おろそかにされる人がいてはならないと、私たちは心がけています。持っている少しのもの、すべての人、特に最も困窮する人々と分かち合います。

- 寄付をする人によって、特に団体によって、寄付先が指定されることがあります。その意向を尊重しなければなりません。

- 財務のいかなる乱用もあってはなりません。たとえ「緊急」であっても、寄付を行う組織・宣教事務局とドン・ボスコ・ネットワークのNGO - は、諸管区からの要請を受け、その実施の有効性を確保するため検討を行います。すべてのプロジェクトの実施について、完全な記録が求められます。相応なときに報告や説明を行わなければなりません。あらゆる記録を残さなければなりません
- 請求書、領収書、報告書、写真など。

- これは100メートル競走ではなく、マラソンです。戦闘ではなく戦争です。現在の直接的な影響の後、その結果は何か月も、何年も続くでしょう。私たちの生活の仕方を真剣に見直さなければなりません。支出を減らし、経費を切り詰め、お金を節約し、漏損を無くし、管理運営を改善し、資金をより有効に活かし、私たちの持てる資金・手段を、何かを生み出すために用い、より簡素な生活スタイル - 車、旅行、祝祭、記念などの祝い - を採り入れることを、私たちは早々に余儀なくされるでしょう。地元の支援をさらに得る努力を、より推進する必要があります。

数日前、フィリピン南管区のドン・ボスコ・マティにいるヴァツラフ・クレメンテ神父から便りがありました。ドン・ボスコ・マティでは新型コロナウイルスに対処しています。どのように？ 労働、すなわち野菜を育てることによって！ すばらしい！ 数週間のうちに収穫が始まります。小さいけれども、前進するためのすばらしい一歩です。

コーディネーターからのメールが、毎日、写真、ビデオ、ニュース、提案と共に、宣教事務局とNGO、全管区長、管区計画・開発事務局に送られています。このメールも希望される方は、その旨ご連絡ください。

緊急支援コーディネーター M. C. ジョージ・メナンバランビル神父

新型コロナウイルス・ミッション



「一致した世界を築くために」

私

はニヨイトウンギラ・エマニュエルと申します。33歳、ブルンジ出身です。7人兄弟のいちばん上に生まれました。シベリアのヤクーツクで、サレジオ会宣教師として働いています。宣教師の召命は子どものころに芽生えましたが、教区の小神学校に入ったとき、まさに自分の召命だとわかりました。私はフォコラーレ運動に参加するようになりました。フォコラーレの歴史、「一致した世界を築くために」という目標について読み、宣教することは誰にでも可能だとわかりました。しかし、自分の望みを神学校の司祭の誰にも話せませんでした。教区の神学校だったので、宣教師という望みの実現の可能性があまり開かれていなかったからです。

あるとき、ブルンジの教員たちがストライキを続けたため、私は学年を終えることができませんでした。私は、サレジオ会の小教区があるルカゴの友人を訪ねました。私たちは一緒に朝の聖体祭儀にあずかりました。ミサの後、その教会のサレジオ会司祭、レミー・ンセンギユンヴァ神父が私たちのところに来てあいさつし、勉強のことなど尋ねました。そのように話しかけてくれたことに私は感激しました。私はサレジオ会員に、そして宣教師になることに決めました。サレジオの心は宣教者であることと同じだと私は理解しました。サレジオ会の養成に入ったときから、私は宣教師の生き方に関心を持ち続けました。とうとう、私は望みを管区長カミエル・スヴェトヴァーガー神父に話し、神父は私と共に真に歩んでくれて、召命を実現させてくれました。私はトリノでの第148回宣教派遣で、総長の手から宣教の十字架を受け、シベリア（ロシア）に派遣されました。

私の挑戦は、3つのカテゴリーに分けられます：

気候の挑戦：知ってのとおり、生まれてこのかた温かい国に暮らしてきた人間にとって、気温マイナス50℃の暮らしに慣れるのはとても大変です。初めのころは、時間の感覚がなくなるほどでした。

文化の挑戦：誰もが自分の文化を持っています。この宣教地の文化に溶け込むのにとても苦労しました（習慣、ものの考え方、感じ方）。新たな言語の習得、新たな食生活、生活のリズムなどに慣れる難しさがあります。

司牧の挑戦：司牧活動を成功させるには、計画、手段が必要です。私たち宣教地の共同体には若者がほとんどいなかったため、使徒職は私にとって大きな挑戦でした。この共同体の私たちは、気候条件に大きく左右されます。

私は夢の実現を助けてくれた会に喜びと感謝を表したいと思います。私は今、幸せです。若者のため、サレジオ会のため、教会のための宣教師であるからです。神を愛するため、ドン・ボスコを愛するために、今日、若者が何を必要としているか私は見ました。ひと言で言えば、神に賛美を歌いながら、人々と一緒に福音宣教に参加することが、私の大きな喜びなのです。

宣教の召命を感じている若いサレジオ会員には、神の声に耳を傾け続けるように；時間をかけて、今日、宣教師であることの意味をよりよく知るようによめます。今日、宣教師であることは難しいけれど可能であり、不可欠なことだと、私は謙虚に、そして少しの経験から言うことができます。グローバル化のさまざまなウィルスに苦しむ若者の魂を救うために。ドン・ボスコは今日、ますます必要とされているのです。ありがとうございます。

ブルンジ出身、シベリアの宣教師 エマニュエル・ニヨイトウンギラ



サレジオの宣教の聖性のあかし

サレジオ会列聖申請人 ピエルルイジ・カメローニ神父



福者 フィリッポ・リナルディ (1858 - 1931)、ドン・ボスコの第三代後継者、VDB (ヴォロンタリエ・ディ・ドン・ボスコ) 創立者。リナルディ神父はドン・ボスコの精神を新たな時代に適応させ、総長として、その恵まれた父親らしさを示し、さまざまな取り組みを率先した：召命への配慮、若い労働者への霊的・社会的支援を行うセンターの創設、扶助者聖マリア修道女会 (サレジアン・シスターズ) への導きと支えなど。サレジアン・コオペラトリーを力強く後押しし、同窓会世界連合を設立した。リナルディ神父は言う。「同窓生は私たちの労働の実りです。私たちの事業は、若者が私たちの元にいるときに良い生き方をするためだけでなく、若者が良いキリスト者となるために行うのです。したがって、同窓生のための事業は継続的なものです。私たちは、彼らのために自らをささげました。その犠牲が無駄になってはいけません。」

アメリカ大陸の信徒宣教師のために



サレジオ会の宣教の意向

宣教師たちが教会の生きたしるしであり続けますように

アメリカ大陸では、何千人にも上る多くの信徒宣教師がサレジオのミッションで共に働いています。宣教師たちが、若者、貧しい人々への、ドン・ボスコと同じ情熱をいただきますように。神の民と共にあって、イエスの人々への愛の、いのち与えるしるしとなれますように。

